

2024年5月14日

Global X Japan 株式会社

米国では資産運用が投資信託からETFへシフト

ETF 発展途上の日本は新 NISA で ETF への投資熱が高まる

日本で唯一のETF 専門運用会社 Global X Japan が考えるETF とは

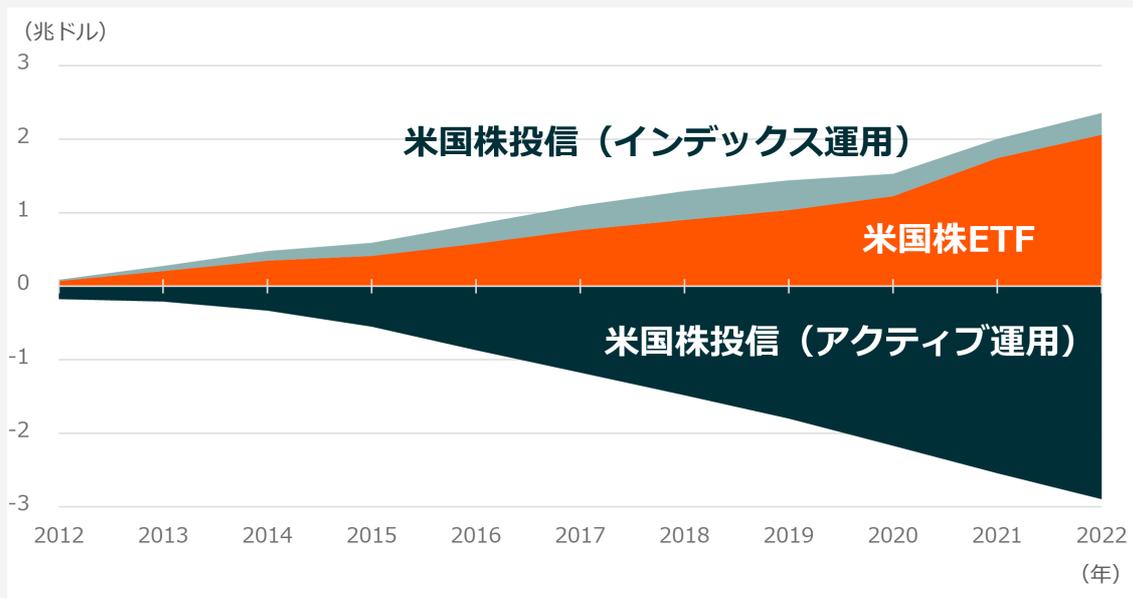
米国で人気のETF～日本でも徐々に注目が集まる

米国ではこれまでの投資信託からETFへと人気が大きくシフトしています。

①低コスト②商品の透明性③機動的な取引（リアルタイムでの売買）、など多くのメリットがあるのがETFです。

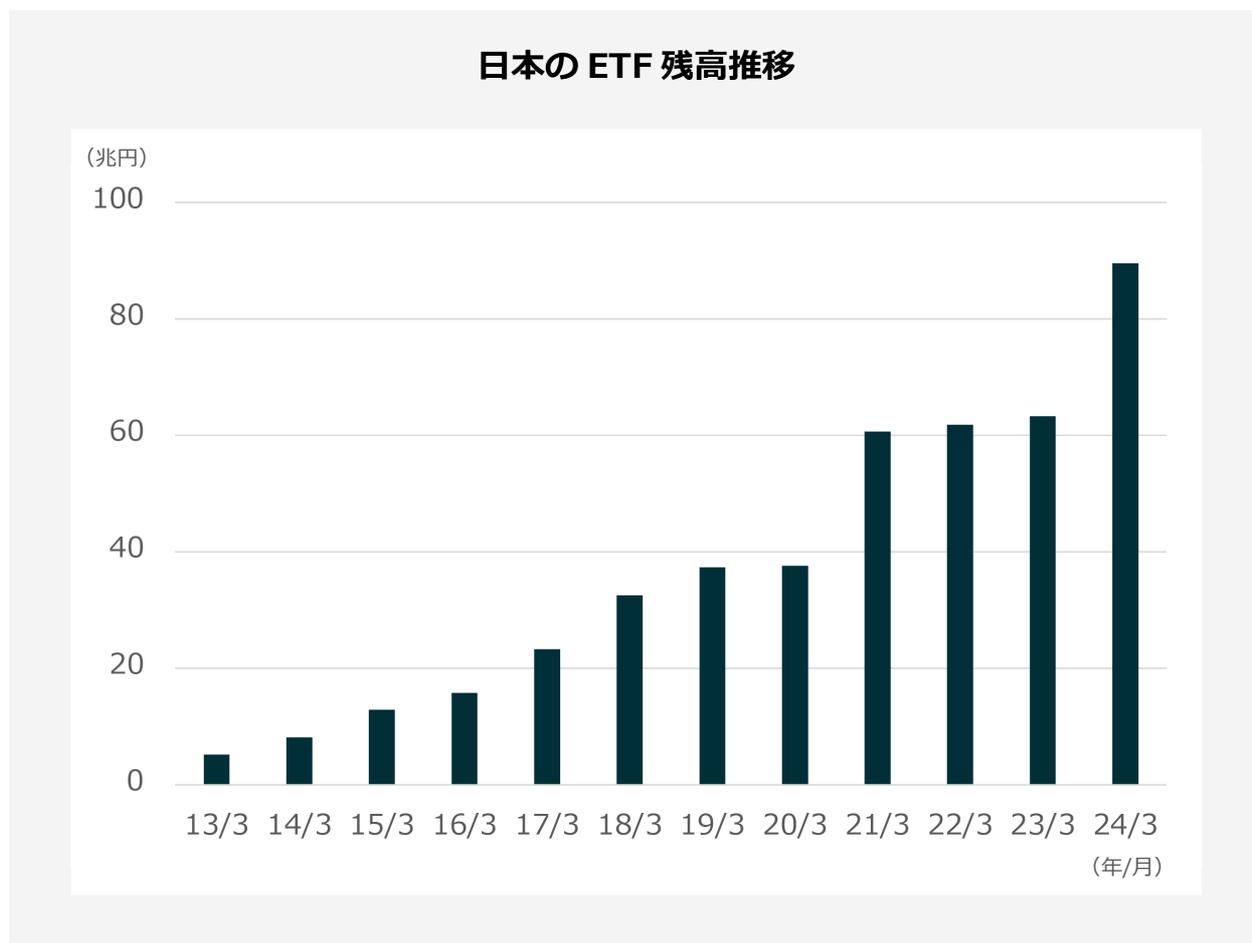
下記の通り、米国では、米国株投信（アクティブ運用）が年々減少する一方、米国株ETFの増加が顕著になっています。

米国籍の米国株投資信託と米国株ETFの累積資金フロー推移



(出所) ICI (米国投資信託協会) より Global X Japan 作成。期間は2012年から2022年まで。年間ベース。

一方、日本においても ETF 残高は着実に増加しており、足元では約 90 兆円の残高となっています。しかし日本では日本銀行が保有する ETF が全体の約 8 割（70 兆円）ほどを占めていると言われており、投資家の間では、ETF の認知が進んでいるとは言い難い状況です。



(出所) 2013 年から 2022 年までは日本取引所グループ、2023 年以降は投資信託協会より Global X Japan 作成。

Global X Japan の ETF とは

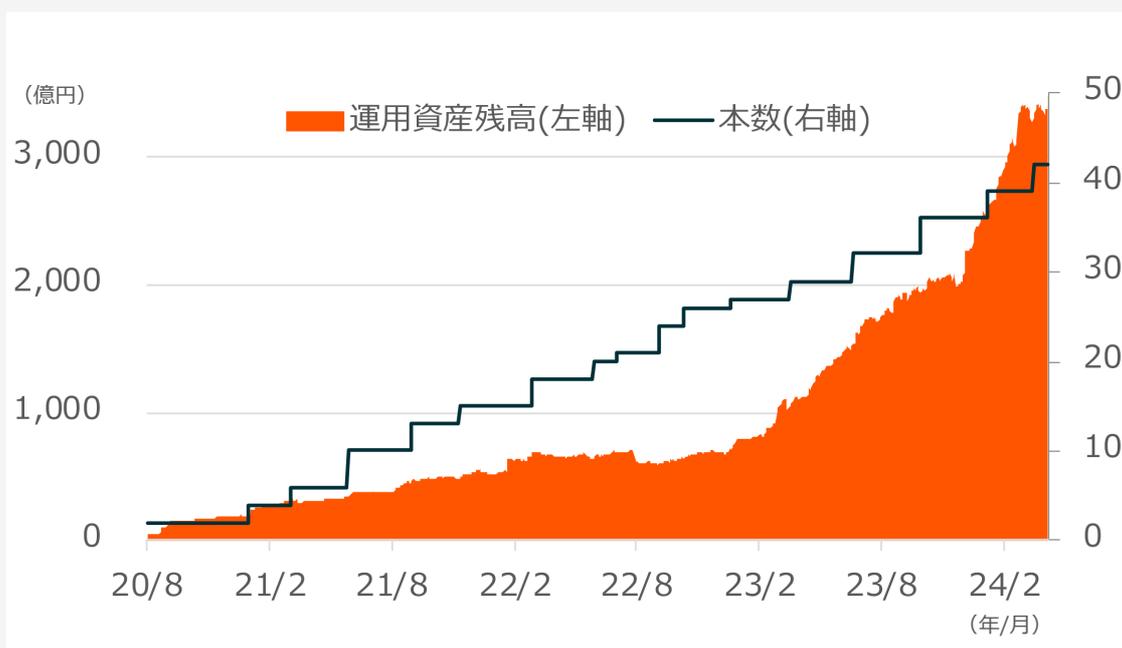
Global X Japan は、2019 年 9 月に設立された日本で唯一の ETF 専門運用会社です。新しく開発した指数などに基づく成長テーマ型、インカム型、コア型※等の、より付加価値の高い革新的な ETF の提供を目指しています。

※成長テーマ型：先進的かつ成長性が見込めるテーマに着目し構造的な変化から恩恵を受けるポートフォリオの提供を目指します。
インカム型：配当利回りや配当の継続性などインカム投資に関する様々なアプローチにより、あらゆるインカム需要に応えることを目指します。

コア型：ポートフォリオ内の中核的な役割を果たすことを目指し、ESG の要素や有効なファクターなどを加味して他とは差別化した投資機会を提供します。

2019年9月の設立以降、順調に運用資産残高を拡大してまいりました。
 また、昨今の半導体関連銘柄に牽引された日経平均株価の最高値更新や、新NISAに伴う個人投資家の投資機運の高まりなどの外部要因も追い風となり、設立後4年半で**運用資産残高 3,000億円**を突破しております。特に、**この直近1年間で運用資産残高は約3倍に増加**しています。そして、東京証券取引所における**新規上場ETF本数では、4年度連続で1位**を獲得しています。

全42ETF 運用資産残高 約3,473億円 (2024年4月30日時点)



Global X Japan 運用資産残高 上位3銘柄 (2024年4月30日時点)

グローバルX MSCI スーパーディビデンド - 日本株式 ETF	786 億円
グローバルX 半導体関連 - 日本株式 ETF	707 億円
グローバルX グローバルリーダーズ - 日本株式 ETF	399 億円

ETFとは

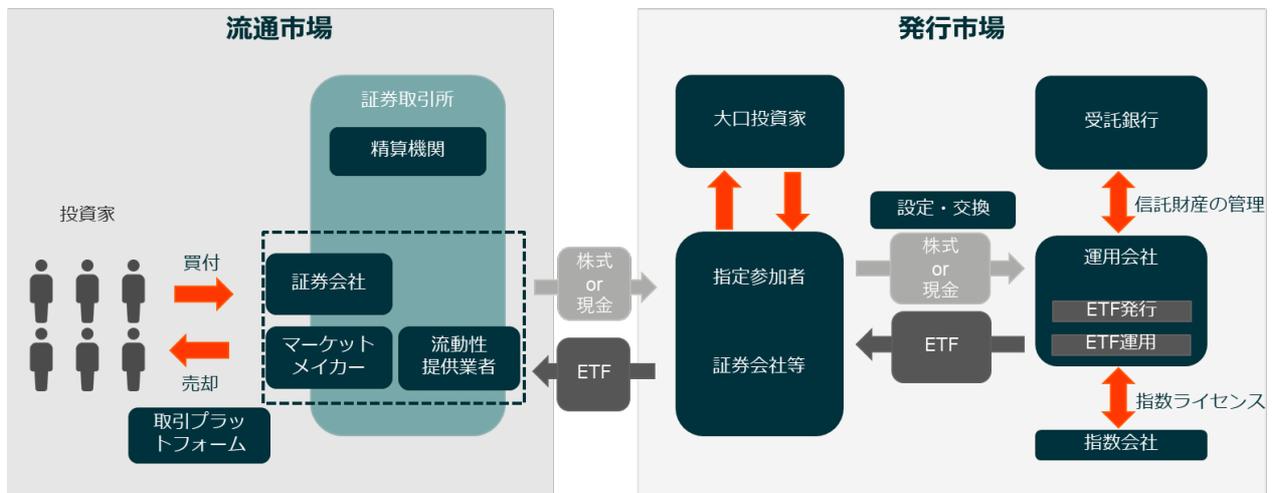
ETFとは「Exchange Traded Fund」の略称であり、日本語では「上場投資信託」といいます。株式と同様に取引所で柔軟に売買が可能で、投資信託と同様に一度の取引で複数銘柄に分散投資を行います。

ETFと株式・投資信託との比較

	株式	ETF (上場投資信託)	投資信託
上場・非上場	上場	上場	非上場
取引価格	リアルタイムの市場価格	リアルタイムの市場価格	1日1回
取引時間	取引所立合時間	取引所立合時間	販売会社が決める時間中
発注方法	成行/指値	成行/指値	基準価額がわからない状況で購入・換金
信用取引	可能	可能	不可
透明性	—	全銘柄開示	開示のない部分も
信託報酬	—	販売会社報酬含まず	販売会社報酬も含む

※一般的な特徴比較であり、全てを網羅しているわけではありません。

ETFの仕組み



※一般的なイメージ図であり、全てを網羅しているわけではありません。

商品開発担当者の話

今回の担当者：運用ソリューション部商品チーム 小嶋 慶 (CMA)

Q、どのような考えで商品設計をおこなっていますか？

A、当社では商品設計を行う際、TOPIX や日経 225 などの代表的な指標に連動した商品ではなく、「まだ誰も提供したことのない」ソリューションを提供すべく、未開拓の市場やアイデアについて、特長あるエッジの効いた商品を開発しようという考えが強いです。

Q、商品開発までの流れを教えてください？

A、まずは扱うテーマを考えます。常に 100 以上のテーマ案ありますが、その中で投資環境などを考慮して具体的に検討に入るテーマを絞り、指数会社にプロトタイプとなる指数の作成を依頼します。次に、その指数のパフォーマンスおよび構成銘柄を確認し、より当社がイメージする投資テーマに沿った指数にするための条件設定等を検討します。これらの工程を繰り返し、約 3 か月の期間で指数を作り上げていきます。

指数の構築後、商品組成（東京証券取引所への申請・書類作成）を行い、約 3 か月後に上場する流れです。そのため、商品開発から上場までトータルで約半年ほどの期間がかかります。

Q、新規上場 ETF 本数を 4 年度連続で 1 位が達成できるのはなぜでしょうか？

A、当社は、新規参入の企業のため、スピード感への意識と商品ラインアップの充実を目指しています。そして「Global X Japan」をもっと多くの方に知ってほしいです。

具体的に年間の新規上場本数の目標は設定していませんが、これまでは四半期毎に 2～3 本、年間 12 本程度の ETF を新規に上場しています。

当社の強みは、ETF 専門の資産運用会社のため、投資信託・ETF など複数の商品を取り扱っている他の運用会社と異なり、ETF に特化した商品設計が可能な点です。また、複数のプロダクトが同時進行していることも多いため、スピード感のある設計が可能です。

加えて当社の強みとして、米国の親会社（Global X 社）のリサーチ力やプロダクト体制が挙げられます。米国で先行しているテーマを当社の商品開発にも活かすことで、よりスピーディーで魅力的な商品設計を実現しています。

Q、運用体制は何名くらいですか？

A、ファンドの運用 4 名、商品開発 3 名です。各メンバーの高い専門性を活かしてファンドの運用を行っています。

Q、Global X Japan の商品設計時の難しさは、どんなところにありますか？

A、単純に流行りのテーマというだけでは当然うまくいかないため、長期的な目線で商品として成り立つかどうかを考えています。例えば、運用資産残高が大きく増加した場合にも、流動性の観点などから運用が継続できるかという点は、商品設計をする上で重要なポイントの1つです。

当社が目指しているのは、他にはない面白くて値上がりが期待できる商品のため、中小型企业の株式の組み入れが多くなる商品もあります。そのため、流動性を保てるよう商品として成り立つかのバランスを考えています。

Q、投資初心者へのアドバイスは？

A、当社のETFの多くは5千円以下で購入できますので、関心のある分野に手軽に投資することができます。また、なるべく早い段階で投資経験を積んでいただくことが、中長期的な資産形成をする上で大事なことであり、個人的には考えています。

Q、中上級者向けへのアドバイスは？

A、個別株の投資経験がある方でしたら、当社の豊富なラインアップの中から興味のある商品が見つかると思います。また、そのETFの構成銘柄でよりポジティブだと思う企業があれば、その個別銘柄を買い足すなどの投資も妙味があると思います。

Q、今後のETF市場に期待することはありますか？

A、日本は海外と比較してETFの認知度・運用資産残高共に遅れており、マーケットとしてはまだ小さいですが、今後は米国のようにETFが他の金融商品に取って代わるものと考えています。コスト・売買の機動性・構成銘柄の透明性等、多くの面でメリットがあり、日本でもETFへの投資が拡大する可能性は十分にあると思います。実際に新NISAが今年1月から始まった後、当社の運用資産残高も大幅に増加しています。これまでとの変化を実感しているため、今後も当社の強みを活かした商品を提供していきたいです。

【会社概要】

商号	Global X Japan 株式会社
所在地	〒100-6121 東京都千代田区永田町二丁目 11 番 1 号 山王パークタワー21 階 03-5656-5274（代表）
事業の内容	投資運用業、投資助言・代理業
設立	2019年9月
資本金	50億円（資本準備金を含む）
株主	Global X Management Company, Inc.（50%） 大和アセットマネジメント株式会社（40%） 株式会社大和証券グループ本社（10%）
拠点	東京
役員	代表取締役会長 張峯碩 代表取締役社長 姜昇浩
役職員	69名
HP	https://globalxetfs.co.jp/index.html

Global X Japan 株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3174 号

一般社団法人日本投資顧問業協会会員

一般社団法人投資信託協会会員

免責事項

- ・本資料は会社概要及び投資戦略等をご紹介することを目的としており、資料に含まれる商品の勧誘・販売を目的とした資料ではありません。
- ・本資料に記載されている内容、情報及びデータ等につきましては、本資料作成時点のものであり、各種要因により変動します。
- ・本資料に関する一切の権利、義務は、情報提供者に帰属し、情報提供者の事由により内容が変更・修正されることがあります。
- ・本資料の情報に基づく判断については、閲覧者ご自身の責任のもとに行うこととし、万一本資料の情報により損失を被ったとしても、情報提供者は一切の責任を負うものではありません。
- ・本資料の著作権は、情報提供者に帰属します。

・ファンド（投資信託）のリスクについて

ETFは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因については次のとおりです。

株価指数先物取引の利用に伴うリスク、株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）、リートの価格変動（価格変動リスク・信用リスク）

優先証券の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）、公社債の価格変動、カバードコール戦略の利用に伴うリスク、為替リスク、カントリー・リスク、その他（解約申込みに伴うリスク等）

- ※ 基準価額の動きが指数と完全に一致するものではありません。
- ※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
- ※ 設定・交換のお申し込みにあたって、詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。
- ※ 詳しくは、金融商品取引所で取引をされる際にご利用になる証券会社にお訊ねください。

・お客さまにご負担いただく費用

ETFに係る費用（金融商品取引所を通してETFに投資するお客さまの場合）（2023年4月現在）

ETFの市場での売買には、証券会社が独自に定める売買委託手数料がかかり、約定金額とは別にご負担いただきます。（取扱会社ごとに手数料率が異なりますので、その上限額を表示することができません。）

保有期間中に間接的にご負担いただく費用として運用管理費用（信託報酬）がかかります。費用の上限は、年率0.704%（税込）※です。

- ※ Global X Japanが運用するETFのうち、最高の料率を表示しています。

また、その他の費用・手数料としては、組入有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、監査報酬等を信託財産でご負担いただきます。

- ※ 「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
- ※ 手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場投資信託および上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。
- ※ 詳しくは、金融商品取引所で取引をされる際にご利用になる証券会社にお訊ねください。
- ※ 設定・交換のお申し込みにあたっては投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。